

夢も希望もないのなら

弾丸だけ握りしめておけば

いいんじゃない？

株式会社ジョンドウ・・・正体不明の男により結成された犯罪請負会社。伝達は全て補佐を通して行われる。

蝦蟇口組・・・神戸に本部を置く暴力団。ジョンドウとは対立関係。

◎登場人物

江寺 夏帆（えでら かほ）・・・男運のない三十路の女。男のために勤務先である四菱銀行の金に手をつけ解雇。風俗嬢となるも、ヤクザの金に手を出し命を狙われる。

出水 虎白（でみず こはく）・・・ジョンドウ役員。闇医者。大麻中毒者。39歳

間久部 桃之助（まくべ もものすけ）・・・ジョンドウ役員。天才ハッカー。25歳。

触沢 一茶（ふれさわ いっさ）・・・ジョンドウ役員。武器商人。42歳。

入間 金子（いるま かなこ）・・・ジョンドウ役員。軽度の吃音症。20歳。

新延 （にいのべ こうだい）・・・ジョンドウ社長補佐。資金調達のため一時的に四菱銀行に潜入していた。26歳。

・名前のみ

ジョンドウ・・・正体不明の男。

有石 青雲（ありいし せいうん）・・・ジョンドウの運び屋。

ロベルトIIカーン・・・大手家電メーカー「ポニー」の会長。ジョンドウに依

頼して、四菱銀行から資金を調達。海外に逃亡しようとしていた。

那須 真啓（なす まひろ）・・・夏帆の元彼。

染谷平太・・・テロリスト。

○オープニング

舞台上には5つの黒いボックスと黒い机が置いてある。
舞台背面にはスクリーン。

【音響…SE 雨の音】

プロジェクターに雨が投影される。
舞台前面で倒れている夏帆。

夏帆 あれ？ あー、私、こんな感じで死ぬんだー。……思えば、クソみたいな人生だったなー。

【照明…一瞬の暗転】

夏帆 ……公橙？

公橙 ……すみません。

夏帆 ……どうして？

公橙 いや、あ、すみません。

夏帆 ……。

公橙 あ、その、夏帆さん。まだ、生きたい……ですか？

夏帆 え？

公橙 いや、あ、もし、まだ生きたいならって思って……。

夏帆 ……。

公橙 なんか、あの、俺、助けてあげられるかも。

夏帆 ……。

公橙 すいませんなんか、でも、もしやれることがあるならっていうか、

夏帆 私、まだ、死にたくない。

公橙 夏帆さん。

【音響… 雨の音が止む。】

【音響…東京スカパラダイスオーケストラ 「カナリヤ鳴く空」
公橙、夏帆を起こす。

【照明…フラッシュ】

虎白、桃之助、一茶、金子が踊りながら現れる。
全員、サングラスを一斉にかける。
踊る6人。

【音響・BGM END】

【照明・地明かり】

○第1幕

「株式会社ジョンドウ」会議室。

虎白、桃之助、一茶、金子、ボックスに座りながら以下の会話をウノをしながら行う。会話の合間合間に「ドロー4」「リバーズ」「スキップ」など、ウノで発生する会話を挟む。（会話が終わるまで、あがれてもあがらない。）

一茶 伝説の風俗嬢を知ってるか？

桃之助 は？

虎白 ハマのメリー？

一茶 違う違う、そんなんじゃない。

桃之助 下ネタはよしてくれ。

一茶 笑っちゃうよな。日本を代表する天才ハッカーが下ネタ嫌いのチェリーボーイってのは。

桃之助 うるさいな。

一茶 それこそチェリーなんて風俗で捨てちまえばいいんだ。俺は18の時に川崎堀之内で仙台出身のお姉さん相手にすぐ捨てたぜ？

桃之助 何回聞いても理解できないね。正気の沙汰じゃない。

虎白 知ってるの通りこの変態はクリトリスにバター塗ってぺろぺろするのが趣味だからな。

一茶 バカ。これは高尚な文学的趣味なんだ。なぜわからない？

虎白 わかってたまるか。まあ、この変態一茶は置いておいて、桃之助もグロテスクなものに少しは耐性を持った方がいい。

桃之助 は？

虎白 俺たちの仕事はデスクワークじゃないんだ。

桃之助 俺の仕事はデスクワークだ。虎白はしょっちゅう人体を切り刻んでる

からグロテスクなものに抵抗がないだけだ。

虎白 闇医者がグロテスクなものに抵抗なんてあるもんか。この間も女の内臓取り替えたしな。

一茶 ウイグル人のとか？

桃之助 笑えない。

一茶 バカ冗談じゃない。でも、そう、それに関連する話だ。

虎白 ウイグル人？

一茶 バカそっちじゃない。伝説の風俗嬢の話だよ。

桃之助 話を戻すのか？

一茶 女の金子も黙って話を聞いてるんだ。これくらい耐えろ。

桃之助 逆だろ？ 金子の前でそんな話は慎めよ。なあ金子。

金子 いや、私は、別に。

一茶 ほら。

桃之助 ちっ。

一茶 その女はさ、25の頃まで処女だったんだ。

虎白 桃之助と同じだ。

桃之助 うるさい。

一茶 女子校女子大、ずーっと女社会で生きてきた。母子家庭に育って、母親を支えるのは自分しかいないと。ずーっと真面目だ。ど真面目。

桃之助 そいつが風俗嬢に？

一茶 バカ。お前まだ早い。で、そいつはまったく男を知らない。だけどある日、運命が変わる。一人の路上ミュージシャンと出会う。無名の男さ。ギャンブル狂のな。

桃之助 ギャンブルをやる奴ってのはみんな頭が悪い。

一茶 だが、そいつの歌はその女に刺さった。女は足繁くその男の演奏に通い、いつしか少しずつ話をするようになり、やがてそいつは女の初めての男になった。

桃之助 で、男に貢いで風俗嬢に？

一茶 バカ早い。女は男に貢いで貢いで貢ぎまくった。女はど真面目だったかな。三菱銀行だ。あそこで働いてた。そこそこ金も持っていた。だが、ギャンブル狂ってのはタチが悪い。金があるとぜーんぶ使っちゃう。そしてついに女は銀行の金に手をつけちゃった。

桃之助 あーあ。バカだね。

一茶 銀行の金に手をつけてバレないはずがない。女はあっけなく解雇。それでも男に貢ぐためにソープ嬢になった。

桃之助 やつとなつたよ。

虎白 その何が伝説なんだ？

一茶 いいか、その女はその路上ミュージシャンしか男を知らない。一途な愛は、女の体に面白い現象を引き起こした。

虎白 おもしろい現象？

一茶 ソープ嬢って仕事は当然ながら、毎日何人もの男と寝る仕事だ。来る日も来る日もパコパコパコパコパコパコパコパコパコ。

桃之助 音に出して言わなくていい。

一茶 そりゃ、ソープの女どもものあそこなんて、誰も彼もガバガバだ。

桃之助 だから言わなくていい。

一茶 でも、その女は違うんだ。

虎白 名器って話か？

一茶 それもあるが、それだけじゃ伝説にならない。痛がるんだ。とにかく痛い。もうガバガバの筈なのに、男に突かれると痛い。初めての時みたいに。

そして毎回血を流すんだ。ライク・ア・バージン。処女のように。

虎白 傷がついてるだけだろ？ 突かれ続けて治らないだけだ。もしくは処女膜強靱症か。

一茶 夢がないねー。だがまあ、そうかもな。本当のところはわからない。でも有名だった。処女を体験できるつてな。

虎白 試してないのか？

一茶 好奇心はあったけど、痛がられるのはな。趣味じゃない。だからやめた。で、その女もソープ嬢をやめた。いや、正確にはやめざるをえなくなった。

伝説のソープ嬢なんて言っても、ソープで稼げる金には限度がある。やがて金は足りなくなる。で、やっちまった。お客さんとして知り合った蝦蟇口組の男を騙して、組の金に手をつけた。

桃之助 わー大胆。

虎白 なるほど。読めた。

一茶 え？

虎白 組の金に手を出したことがバレて、女は初めてミュージシャン男に相談。

すがるように男を頼ったが、フラれる。組から命を奪われそうになったところを命からがら脱出。だが、内臓破裂。ほっとけば死ぬ。

一茶 わかつて俺に喋らせろよ。

虎白 そりゃ悪かったな。

一茶 そう。ほっとけば死ぬような状態だった。だけど伝説の風俗嬢は強運の持ち主だったんだ。蝦蟇口組とは対立関係にある犯罪組織「株式会社ジョンドウ」の社長補佐がどういいうわけかその女を助けた。

桃之助 あー、そういうことね。気に食わないな。なんでそんな奴が「ジョンドウ」の役員になれるんだよ？ その女に何ができるってんだよ？

一茶 (笑って) そりゃパコパコだろ？

金子 あう。

一茶 ん？ どうした？ 同じ女として少しは思うことがあったか？

金子 あがった。

金子以外の3人 はあ？

一茶 いつの間に？

虎白 さっきまでいっぱい持ってたじゃないか。

金子 でも、なくなった。

桃之助 待った待った！ なしなし このゲームは無効だよ。だって言っ
てない！ ウノって言っ
てない！

一茶 そうだぞ！ ウノって言っ
てない！ 絶対言っ
てない！ 言っ
たら絶対
対気づく！

金子 言った。3人が、違う話で盛り上がったから。

一茶 いーや、言っ
てない！ 絶対わかる！ もし言っ
たら会話の途中でも
ゼーッ
たいわかるね！

桃之助 そうだよ。これに
関しては一茶に同意だね。絶対ウノ
って言っ
てないよ。誤魔化して
るだけだ。

金子 ……言っ
たもん。

一茶 言っ
てない。

金子 言っ
た。

桃之助 言っ
てない！

金子 言っ
た。

一茶 言っ
てない。

金子 言った。

桃之助 言ってるない！

金子 言った。

一茶・桃之助 言ってるない！

虎白 言った言わないになったら水掛け論だ。埒があかない。やめにしよう。

金子 言ったもん。

虎白 だからここは俺が払うよ。

一茶 おお、太っ腹。

金子 それなら、別に。

桃之助 待てよ。役員はみんな平等なはずだろ？ これであんたが払ったらあ

んたがリーダーみたいになるじゃんか。かといつて割り勘じゃつまらない。

だから勝負で決着をつけようつつてウノを始めたのに！

一茶 いいじゃないか。損はしない。

桃之助 気持ちの問題だ。

虎白 じゃあお前が払うか？

桃之助 ふざけんな。誰が払うか！

虎白 なら解決じゃないか。

桃之助 勝負しよう！ もう1回！ ウノで、いやもうじゃんけんでもいいか

ら！ 勝負しよう！

金子 やだ。私、さっき勝ったもん。

一茶 ほらほら、こうなるから出水大先生が払ってくださいるって言ってるんじ

ゃないか。ここは大先生を立てて、な。

桃之助 大先生とか言ったら上下感がでちゃうだろうが。

虎白 気が変わった。こいつを撃つてくれ。

金子、手をピストルの形にして、桃之助を撃つ動作。

金子 プシューン。

一茶 (笑って) グロテスクなのは嫌いなんだろ？

桃之助 ちっ。わかったよ。今日は特別だ。でも俺はこれで俺たちの格付けに

なったなんて思わないからな。

虎白 思わなくていいよ。

一茶 誰も思っていないっつーの。そんなこと考えるのはお子ちゃまだけ。
桃之助 人をお子ちゃま扱いするな。

一茶 バカお前知らないのかよ。チェリーは、成人してもお子ちゃまなんだぜ？
桃之助 は？ なんだそれ？

虎白 いっそ金子にやらせてもらったらどうだ？

桃之助 はあああ？ ありえない。絶対ありえない。

一茶 おお、いいなそれ、なあ、そうしろよ。

桃之助 ふざけんじゃねえよ。

金子 (笑って) チェリー。

桃之助 金子まで俺をバカにすんのかよ！

一茶、虎白、笑う。

虎白 さあ、新役員にご馳走をたらふく食わせてやろうじゃないか。新人歓迎会だ。

桃之助 気にいらねー。

全員、サングラスを取る。

【音響：BGM 東京スカパライズオーケストラ 「月に吠える」】

【照明：一瞬の暗転】

○挿入1 白

プロジェクターに「出水 虎白」の文字。

【照明：ブルー】

バーで酒をあおる虎白。

公橙 あ、すいません。

虎白 ……誰だ？

公橙 すいません。あの、俺、ある人の使いました。

虎白 使い？

公橙 (メモを見て) 出水虎白さん、ですよね？

虎白 ……そうだが。

公橙 (メモを見て) 大麻中毒で医師免許を剥奪された出水虎白さんですよ？

虎白 ……。

公橙 すいません。

虎白 ……。

公橙 (メモを見て) 助けてほしい人がいます。外科手術が必要です。

虎白 ……。

公橙 (メモを見て) いや、あの。もう医師ではないあなただからこそ、お願いしたいんです。

虎白 ……。

公橙 (メモを見て) 大麻は、あなたが助け続けるために必要だったんですよ？

虎白、酒に口をつける。

公橙 あ、あの、すいません。

虎白、公橙のメモを奪う。

公橙 あ、

虎白 ……あなたが活躍できる場所を作ります。定期的に必要なら大麻や薬も用意します。必要な医療器具も全て揃えます。また人を助けられますよ。…バカにしてんのか？

公橙 いや、あの、すいません。

虎白 こんなメモは不要だ。俺が聞きたいのは1つ。…お前は、そいつを助

公橙 ……はい。

虎白 ……で？ その依頼を受けたとしたら、誰を助ける？ このメモの主

公橙 名前はありません。

虎白 名無しの権兵衛か。

公橙 「ジョンドウ」です。

【音響…BGM END】

【照明…地明かり】

○第2幕

3ヶ月後。

ジョンドウ、会議室。

公橙 じゃあ、すいません。

公橙、去る。

酒に口をつける虎白。

夏帆が入ってくる。

虎白 どうだ調子は？

夏帆 よくわかんないです。

虎白 どうだ俺の腕は？

夏帆 よくわかんないです。

虎白 普通はそんだけの傷で臓器移植までしたら一生ビキニなんて着れない。

夏帆 もともと着ませんし。

虎白 傷跡が残らないのが嬉しくないのか？

夏帆 傷跡が、というか、生きてることが嬉しくありません。

金子が2人の様子を覗く。

虎白 もう3か月だ。生きてることに慣れる。

夏帆 え？

虎白 3か月前のあの日に自分は死ぬべきだった。

夏帆 ……。

虎白 そんな顔だ。

夏帆 だって、このまま生きてても。

虎白 以前からは想像もつかない金が手に入っただろ？

夏帆 犯罪ですけど。

虎白 気にするな。昔と違って、今お前の周りにいるのは、罪を犯してるやつだらけ。罪悪感なんて感じる必要もない。

夏帆 でも。

虎白 集団で少数派だから疎外されるんだ。異質。異端。頭がおかしい。狂ってる。そう思われる。だからそういうやつらをうちの社長は集めた。「ここでの普通」を作った。

夏帆 ここでの普通？

虎白 そうだ。夏帆にやってもらってる地下銀行の仕切りも外じゃ異端。やってはいけないこと。でも、ここじゃ普通だ。

夏帆 普通。

虎白 (金子に気づき) 金子、見ていないで入ってきたらどうだ？

金子 あ、うん。

夏帆 こんにちは。

金子 あう、こんにちは。

虎白 何遠慮してるんだよ。

金子 さつき公橙、来てた。なんか落ち込んでた。なんの話してた？

虎白 仕事の話さ。

夏帆 さつきまで公橙がいたんですか？ 私、全然公橙に会ってないんです。

公橙に助けてもらったはずなのに。

虎白 社長のとこさ。あいつは社長補佐だからな。

夏帆 社長補佐。

虎白 社長との付き合いも一番長い。社長の居場所を知ってるのもあいつだけ。

夏帆 私、その。

虎白 ああ、三菱銀行の後輩だったんだって？ 公橙はスカウトもやってるんだ。ちょうど地下銀行をとりしきれ人間を探してた。潜入だ。

夏帆 潜入。

金子 あ、夏帆、公橙と友達だった？

夏帆 まあ、そうだね。たまに飲みに行ったり、してたかな。

金子 私も、公橙と友達。

夏帆 そうなんだ。

金子 夏帆は？

夏帆 え？

金子 夏帆は、私と。

夏帆 え？

虎白 言ってやれよ？

夏帆 え？

虎白 言ってやれよ？

夏帆 え？ あ、うん。友達？

金子 そうか。夏帆は、私と友達か。

夏帆 うん。

金子 そうか。

虎白 にしても珍しいな。

夏帆 何がですか？

虎白 公橙が潜入先で誰かと仲良くなるすむなんてな。

夏帆 そうなんですか？

虎白 あいつは観察者であり、伝達者だからな。悪く言えば空っぽ。社長の「目」

と「口」でしかない。「脳」は社長だ。

夏帆 あんまりそういう風には。

そこへ桃之助が少し慌てた様子で入ってくる。

桃之助 いやー、ごめんごめん。もう少しで勝てそうだったからつい時間を忘れてちゃってさあ。

虎白 いいさ、まだ一茶も来てない。

夏帆 勝てそう？

桃之助 ……。

金子 なん、かで勝ったの？

桃之助 そうなんだよ。「シーシーボーイズ」つつうプロのチームがいるんだけどね。なんか調子に乗ってつからさあ「テンプラトウーン」のサーバーに入り込んで、超チート武器揃えてボッコボコにして遊んでたんだよ！ いやー、あいつらの実況流しながらやってたんだけどね！ いやあサイッコーの反応だったよ。「え？ なんてなんで？」「おかしいだろ！」つつつてさあ。

虎白 一茶も悪趣味だがお前も相当悪趣味だ。

桃之助 バター野郎と一緒にすんなよ。

夏帆 「テンプラトウーン」って？

桃之助 ……。

金子 あう、てんぷら？

桃之助 金子「テンプラトウーン」知らないの？

金子 うん。

桃之助 ジャンルとしては「アクション・シューティング」さ。4対4のオンライン対戦で、イカみたいなキャラクターが油と粉をぶっ放して、フィールドに転がってる食材をテンプラにしていくってゲームさ。

金子 おも、しろいの？

桃之助 いや。かんっせんにクソゲーだね。そのクソゲーで頂点とってちやほやされてる奴らが気に食わなかったからやっただけさ。

夏帆 桃之助さんは、ゲームがお好きなんですか？

桃之助 ……。

金子 桃、ゲーム、好きだよね？

桃之助 好きってほどじゃないけど？ まあ、この間ゲーム用に家は買ったね。地下がゲーセンになってさあ……。

虎白 (制して) ガキみたいなことはやめろ！

桃之助 ん？ ゲームの何が悪いのさ？

虎白 そっちじゃない。

桃之助 じゃあ何だよ？

虎白 そんなあからさまに夏帆を無視しといてとぼけんじゃねえ。

桃之助 えー、江寺さん何か言いましたー？ ちょっと聞こえなかっただけです。

夏帆 いや、私。あの虎白さん、別に私。

虎白 ガキ扱いされたくねえなら振る舞いから変えろ。

桃之助 は？

虎白 気にくわねえならはつきり言ったらどうだ？

桃之助 ……だから、ずっと言ってるんだろ！ 俺はこの女が役員になるのほもともと反対なんだ。ちょっと軽犯罪に手を出しただけのバカ女を、役員にするなんて社長もおかしいぜ？ 万引き主婦をうちに入れるようなもんだろ？

虎白 お前、蝦蟇口組の金に手え出せるのか？

桃之助 出すわけねえだろ？ 危険すぎる。そういうリスクを考えれない犯罪は素人のやることだ。俺たちはプロだろ？ だから万引き主婦と同じだってんだ。衝動的な犯罪なんかクズがやることだ。

虎白 なるほど。だ、そうだ？ 夏帆、反論はあるか？

夏帆 え？

虎白 言われっぱなしでいいのか？

夏帆 いや、だって、私、好きでここにきたわけじゃないし。

桃之助 じゃあ出てけよ？

虎白 社長が許すもんか。

桃之助 だろうな。

虎白 夏帆は、ここにいたくもないのにいさせられてる。桃之助は夏帆が役員なのが気に入らない。お互い現状をよく思っていないなら、対立する必要はない。

桃之助 は？

虎白 対立は無意味だ。桃之助、もしお前が本当に夏帆の存在が気に入らないなら、社長に夏帆の退社を認めさせればいい。違うか？

桃之助 は！ 誰がそんな面倒なこと。

虎白 現状を打開する気がないなら現状に文句を吐くな。かつこ悪いぞ？

桃之助 ……うるせーな。

虎白 何？

桃之助 わかったよ。わかりましたよ。「普通に」接すりゃいいんだろ「普通に」。

いいか江寺、あくまでビジネスとしてお前と喋ってやるよ！ いいな！

夏帆 は、はあ。ありがとうございます。

桃之助 虎白もこれで文句ないだろ？

虎白 そうだな。一旦は文句ない。

桃之助 金子！

金子 あう。

桃之助 気い使わせたな。悪かった。

金子 ……おう。

そこへ一茶が入ってくる。

一茶 え？ なになに？ 揉め事？ 揉め事？ ぶつかっちゃった感じ？ ど
んぱちしちやった感じ？

虎白 もう終わった。

夏帆 こんにちは。

一茶 ああ、こんにちは。あー、バカ一步遅かったのか。見逃した。

桃之助 まず遅れたことを謝れよ。

金子 桃も、遅れた。

桃之助 俺は謝ったし、だいたい遅刻ってのは一番遅れたやつが一番悪いんだ
よ。

虎白 そんな理論はない。遅刻したやつは全員悪い。

一茶 バカ。そうだよ。遅刻は遅刻。全員悪いんだ。

虎白・桃之助 お前が言うな。

一茶 バカ冗談だよ冗談。遅刻してゴメンなさい。

虎白 どうして遅れた？

一茶 いや、ちよつとね。

虎白 ちよつと？

桃之助 ちよつとなんだよ。

一茶 ちよつとナニがどうして。

桃之助 意味わかんねえよ。はっきり言えよ。

一茶 あんま言うなよ？

桃之助 知らねーよ。

一茶 だからな、バターがな。

桃之助 は？

一茶 ほら、バター犬ってあるじゃないか。それを自分のさ、な？ わかるだ
ろ？ 俺、マルチーズ飼ってるじゃん？ でさ、試したわけよ。でな、そし
たらさ、いや、まあ、予想は多少できたことではあるんだけども、な？ ガ
ブツ！ よ。ガブツ。で、俺、「ぎゃあああああああ！」よ。で、すぐ部
下呼んで。で、ほらばれたくないじゃん？ 虎白に。だから、虎白の部下に
さ、連絡とって。医療班をさ、でな、遅くなったわけで。幸い噛みが甘かつ
たとかで、機能は停止してないんだけどな。

桃之助 引くわー！

一茶 ほらあ、だから言いたくなかったんだ！ 虎白なんか知れた日にゃ。

虎白 全部把握したけどな。

一茶 あああ！ ちょっと待って。虎白には言わないで。

虎白 虎白は俺だ。

金子 ガブツ。(笑う)

一茶 わ。あ。うわ！ もうだめだ。

虎白 俺に知られて何がまずい？ お前に対するイメージが今更変わるもんか。

一茶 そ、そうか？

虎白 気にするな。

一茶 そ、そうか。

桃之助 そこ、安心するところじゃねえぞ。

一茶 何？ バターをバカにしてんのか？

桃之助 バター自体にバカにする要素ないから。俺が言ってるんの使い方だから。

一茶 まあな、バターは最近値上がり激しいからな。いっそマーガリンに手を出すつても。

桃之助 おい、虎白。俺の趣味はこんなのと一緒か？

虎白 ああ、それは訂正しよう。こいつの方が、ちんぽ一つ分進んでる。

桃之助 下ネタで例えるのはよせよ。

虎白 ああ悪かった。陰茎一つ分だな。

桃之助 医学用語ならアリとかねーから。

一茶 あーあ。ひどい目にあつた。で？ 今日の議題は？

虎白 ああ。社長直々々々なのでかい仕事だ。各部、心して取り組んでほしい。

一茶 大袈裟だな。いつも通りだろ？

虎白 どうかな。いいか、依頼人はポニーの会長、ロベルトカーンだ。

一茶 またでかいのきたな。

虎白 事の発端はカーンがその膨大な役員報酬額を少なく見せるために、実際の報酬よりも少ない額を有価証券報告書に記載していたことだ。それを今、

東京地検が嗅ぎ回ってるらしい。

桃之助 あちゃー、バレるのも時間の問題だねー。

金子 バレたら、逮捕。

夏帆 ポニーって、あのポニーですか？

虎白 そうだ。世界のポニー。テレビ、カメラ、音楽、ゲーム、家電だけじゃない。保険やら不動産やら何やら、まあ盛りだくさんのコングロマリットだ。

一茶 あれ？ そーいや、カーンと社長は知り合いだったろ？ 奴の依頼でだいぶ前にうちの「ハングマン」を動かして餃子屋の社長をやったぞ。

夏帆 ハングマン？

一茶 (笑って) ジョンドウ最強の殺し屋だよ。

夏帆 最強の殺し屋。

金子 追悼餃子、美味しかった。

桃之助 ああ！ あったね！ そんなの。金子と食べ行ったわ。

一茶 不謹慎極まりなかったな。カーンも餃子を美味しく頂いたって話だぜ？

虎白 そう、その縁もあって東京地検の動きを察した社長はカーンに国外逃亡の話を持ちかけた。捕まる前に逃げろと。

桃之助 なるほどね。繋がったよ。で、社長は逃亡資金調達のために、三菱銀行に公橙を送り込んで、カーンの奥さん名義でつくらせた会社に不正融資を行わせてたわけだ。だいぶ手伝ったからねー。覚えてるよ。

一茶 ああー。あれかー。

夏帆 スカウトじゃなかったんですか？

桃之助 それだけのために公橙を潜入させるかよ。思い上がり発言だねー今は。

夏帆 思い上がってなんていません。

桃之助 じゃあなんだって言うんですかー？ 素朴な疑問とでも言うんですかー？

一茶 なに？ 揉め事？ 揉め事？ 俺どっちに加勢したらいい？

虎白 よせ。

桃之助 はいはい。

虎白 逃走資金は用意できた。後は東京地検の目を盗んでカーンを国外に逃がす。今回の仕事はカーンを福井県若狭湾の港から中国へ密航させることだ。

陣頭指揮は一茶。その補佐に金子に入ってもらおう。

一茶 ういー。中国だからね。手配もお任せあれ。

金子 あう。

虎白 そうだ。そして後方メンバーとして桃之助を会社に置く。遠隔で支援を頼む。

桃之助 はいはい。ま、事前にルートの準備とかしちやったら、本番はそんなにすることはなさそうだね。

虎白 事前の準備が大切だ。よろしく頼む。

桃之助 了解。

一茶 実働部隊は？

虎白 青雲をつける。

一茶 お、青雲か。

桃之助 青雲がついてれば安心だね。

夏帆 青雲？

虎白 我が社の優秀な運び屋。有石青雲だ。人も金も武器も薬も、こいつに任せればまず間違いなく運び切れる。

一茶 ポイントはカーンをどうやって都内から出すか、だな。車移動は全てつけられてると思っただ方がいい。

桃之助 荷物になってもええ？ 人じゃなくてモノにさ。

一茶 お、それもらった。カーンは嫌がりそうだが、それでいくか。エスパ―伊藤ばりに鞆の中に入れてもらおう。

虎白 家族の移動も含めて方法は任せる。若狭湾の港には、密航船を決まった時間、15分だけ停める予定だ。その15分の間にカーン家族を潜り込ませろ。

桃之助 大金持ちが狭いところから狭いところへ。滑稽だねー。

一茶 大金持ちほど意地汚いからな。生命力がゴキブリ並みだ。

桃之助 ゴキブリだから狭いところは得意ってことか。

虎白 依頼人をゴキブリ扱いするなよ。

一茶・桃之助 はい。

虎白 夏帆はまず、カーンの嫁の会社から現地に金を送れ。

夏帆 はい。

虎白 そして青雲と一緒にカーンを運んでもらう。

夏帆 え？

虎白 現地での地下銀行とのやりとりをカーンに伝えるためだ。

夏帆 はい。

一茶 そういふのは直接口頭が一番漏れないんだよ。

夏帆 そう、ですね。

虎白 青雲がついてれば問題ない。心配するな。

夏帆 はい。

虎白 詳しい場所と時間は追って公橙から連絡させる。質問はあるか？ ……
ないな。じゃあ頼んだぞ。

一茶 医療班は今回は出番なしだな。

虎白 医療班なんて出番がない方がいいだろ？ だから気安く使ってくれんな

よ？ てめえのちんぽ、いや陰茎を治すのは仕事じゃない。

一茶 わかってるよ。もうしないっての。ちんぽ、いや陰茎に傷がつくのはもう勘弁だ。

桃之助 その謎の配慮いららないんですけど。

虎白 セクハラにはうるさい世の中だからな。気をつけないと。

桃之助 だから配慮になってねーんだっての。

虎白、去る。

一茶 桃之助、早速青雲と打ち合わせだ。行くぞ。

桃之助 はいよー。

夏帆 あ、私も。

一茶 必要ない。情報の流出は避けなければならない。たとえ味方でも情報を
知る人数は少ない方がいい。

桃之助 これだから素人は。

夏帆 すいません。

桃之助 いこいこー。

桃之助、去る。

一茶 ま、気にするなよ。役割の違いだ役割の。夏帆には夏帆のスペシヤルな
仕事がある。

夏帆 でも、大きな仕事は初めてなので、情報がないのが不安で。

一茶 ー。まあわからなくはない。そうだな。まとまったらある程度は教え
てやる。それでいいな？

夏帆 はい。お願いします。

一茶 じゃあそういう感じで。

一茶、去る。

金子 あう。夏帆。

夏帆 何？

金子 だ、大丈夫？

夏帆 ん？ ああ、桃之助さんのこと？ 大丈夫大丈夫。気にしてないよ。

金子 ちが、くて。

夏帆 え？

金子 全部。

夏帆 全部？

金子 大丈夫？

夏帆 え？

金子 あう、私は、ここにいて、幸せ。でも、夏帆は？ 夏帆は、違う。夏帆は「普通」。「普通」になれる。私は、なれない。夏帆は「普通」になった方がいい。

夏帆 ……変なこと言っている？

金子 え？

夏帆 幸せじゃないことって、満足できないことって、実はそれが幸せなんじゃないかな？

金子 あう、わ、わかんない。

夏帆 んー、私さ、すごい真面目人間だったのね。学校でもいつも優等生って言われて、成績もよかったし、就職しても期待の新人って感じで。

金子 すごい、ね。

夏帆 すごい。そう、私もそれでいいと思ってて、そうやって満足して生きてきたんだけどさ。アイツの、真啓の歌聞いたときに思っちゃったんだよねー。

金子 ま、ひろ？

夏帆 あー、元カレね。なんかそいつの、なんか、生への渴望とか、ガムシヤラ感とか、そういう泥くさい、きたないものの方が生きてるって感じなんじゃないかって。真面目に生きてきたってそんな人生って楽しいって言えるのかなって。

金子 真面目は、つまらない？

夏帆 なんかさ、例えばね、ヤンキーと優等生だったらヤンキーの方がドラマ

になるでしょ？ 頭がいいヤツだとしても、ちょっと狂ってるくらいのやつの方がドラマになるでしょう？ でも私は何にもなれない。

金子 綺麗は汚い。汚いは綺麗。

夏帆 あー、そうだね。そうかもしれない。

金子、夏帆の髪の毛をくしゃくしゃする。

夏帆 なに？

金子 (笑って)夏帆は汚い。

夏帆 え？

金子 汚いは綺麗。

夏帆 ……ありがとう。

金子 夏帆は友達。社長は社長。

夏帆 え？

金子 手伝う。何かあったら、言ってね。

夏帆 ありがとう。

金子、去る。

○第3幕

【照明…ブルー＋地明かり】

入れ替わりで虎白が入ってくる

虎白 どうした？ こんな時間に。

夏帆 虎白さんは、ここが居場所ですか？

虎白 は？

夏帆 ここにいて幸せですか？

虎白 どうした急に？

夏帆 いえ、なんとなく。そんなことを聞きたくなくなったんです。

虎白 どうかな。幸せとかはよくわからないが、ここは居心地がいい。お前は
どうだ？

【音響…BGM 東京スカパラダイスオーケストラ めくったオレ
ンジ】

夏帆 わかんないです。私はまだ、よくわかりません。たぶんそれはここに
いるからとかじゃなくて、どこにいてもなんでしょうけど。

虎白、夏帆を抱擁する。

夏帆 え？

虎白 俺が居場所になってやる。

夏帆 ……なんで？

虎白、離れる。

虎白 那須真啓。残念ながら奴はもうダメだ。

夏帆 え？

虎白 とんでもないヤツから金を借りちまった。

夏帆 とんでもないヤツ？

虎白 染谷平太。テロリストだよテロリスト。

夏帆 テロリスト…。

虎白 俺たちが犯罪のプロなら、染谷は「壊し」のプロだ。

夏帆 壊し？

虎白 なんでもかんでもめっちゃくちゃにする達人ってことだよ。俺たちは危険
に身を置くが死んでもいいとは思ってない。だが奴は違う。目的のためなら
死をも厭わない。

夏帆 なんでそんな人のところに？

虎白 お前と別れたとはいえ、蝦蟇口組がそれで済ますと思うか？ 蝦蟇口も
頼れない、うちも頼れない、行き着いた先が染谷だったみたいだな。

夏帆 私のせい？

虎白 違う。あいつ自身のせいだ。お前と付き合ってた時、あいつが本当にギ
ャンブルだけに金を入れ込んでたと思うか？

夏帆 それって…。なんでそんなこと？

虎白 行きすぎたロックはタチが悪い。ジョンドウは組織に引き入れる人間の
身辺調査を怠らない。

夏帆 でも。

虎白、銃を机に置く。

夏帆 銃？

虎白 やる。持っとけ。

夏帆 なんで？

虎白 アメリカにこんなことわざがある。「Free men own guns, slaves don't」

夏帆 自由な人は銃を持って、奴隷は銃を持たない？

虎白 そうだ。自由な奴は銃を持つてる。いいか？ 当たり前だが、銃ってのは
弾丸を込めないと打てないんだ。

夏帆 弾丸。

虎白 お前の弾丸を込めろよ。

夏帆 私の、弾丸。

夏帆、銃を取り、虎白へ向ける。

虎白 そう、それでもいい。

夏帆 え？

虎白 桃之助だって、本気でお前のことが気に食わなければ、撃ちまえばいい
んだ。ここはそれをしていい場所だ。

夏帆 それをしていい場所。

虎白 だがしない。なぜか？ 弾丸を込めてないからだ。本気じゃないからだ。

夏帆 本気じゃない。

虎白 本気なら、今ここで俺を撃っても構わない。お前の弾丸はそれか？

夏帆 ……（銃を下げる）。

虎白 いつでもやれる。それだけで心が軽くなる。お前の居場所は、俺が作っ
てやる。

夏帆 ……持っておきます。もし。

虎白 ん？

夏帆 もしこれで私が真啓を撃つても、それはここでは「普通」ですか？
虎白 そうだ。普通だ。誰もお前を咎めない。むしろ、「ああ、そりゃ撃つよね。
わかる。わかる。」と。そういう連中の集まりだ。ここは。
夏帆 わかりました。

夏帆、銃を持って去る。

【音響…BGM END】

【音響…BGM 東京スカパライズオーケストラ Ocean
to Ocean】

【照明…一瞬の暗転】

○挿入2 桃

プロジェクターに「間久部 桃之助」の文字。

【照明…ブルー】

【音響…ドアが蹴破られる音】

桃之助の部屋。桃之助がパソコンを開いている。
そこへ虎白が入ってくる。

桃之助 な！ 何だよ！

虎白 間久部桃之助だな。

桃之助 え？

虎白 東京ひきこもり自立支援センターのものです。

桃之助 ……は？ 嘘だろ？ こんな柄の悪いNPO法人があつてたまるか。
ドアぶっ壊れたぞ。

虎白 まあ、そうか。

桃之助 何だよあんた。

虎白 雷通のホームページハックして、ウイルス流したのお前だろ。

桃之助 は？

虎白 安心しろ。俺は警察じゃない。お前の味方だ。

桃之助 何？ 何あんた。全然わかんない。

虎白 よく雷通に手を出したもんだ。並みの思考回路じゃそんなことできない。

だが悲しきかな、捕まるのは時間の問題だな。

桃之助 別に。単に奴らがムカついただけだよ。

虎白 ムカついた？

桃之助 感動漫画を意図的にバズらせて儲けようとしやがったり、国と繋がって万博の金をいのように利用したりさあ！ むかつくだろ？ 調子乗りすぎ。だからちよつとびっくりさせてやろうと思つてよ。そしたら、見たかニュース。想像以上だよ。世間がびっくりしちやつたみたいだね。

虎白 随分ペラペラ自供しだしたな。

桃之助 は？

虎白 それでヒーローになれるとでも思つたのか？

桃之助 そんなわけないだろ？ ムカつくやつを殴っただけだ。ヒーローとかダサ。厨二かよ。

虎白 要は認められたかつたんだろ？

桃之助 はあ？

虎白 でも警察に捕まっちゃつたら認められるどころかクズ扱いだぞ？

桃之助 ……変わんねえだろ。もともと俺は引きこもりのクズ扱いだ。

虎白 もつたいないな。雷通にハッキングなんて、相当の腕がないとできないぜ？ それに俺と対峙してもその口調。なかなか度胸もある。

桃之助 ……そりゃそうさ。俺がこんな家庭に育つてなかつたら、アノニマスにでも入つて大活躍してただろうぜ。

虎白 でもお前はその「こんな家庭」の奴らに認めてほしかったんだろ？

桃之助 ……は？ こんなクソ家庭に認めてもらつて何になるつてんだ？

虎白 そりゃちようど良かったな。

桃之助 は？

虎白 そのクソ家庭にお前の犯した罪の話をしてな、警察より先に俺たちがお前を引き抜くつてことで、お前のことを100万円で売つてもらつたんだ。

桃之助 え？

虎白 嬉しそうに100万円に飛びついてたぜ？

桃之助 100万。

虎白 認めてもらえないところにしがみついて何になる。俺たちならお前が認めてもらえる場所を作つてやれる。警察には別の人間をお前の代わりに送りこんどいてやるよ。俺たちと来い。「こんな家庭」はお前の言うようにクソ家

庭だ。現状に抗えよ。
桃之助 ……。

【音響…BGM END】

【音響…カーチェイスの音 銃声 叫び声】

【音響…東京スカパライズオーケストラ 「HAMMERHEAD」

【照明…フラッシュ】

○第4幕

会議室に一茶が入ってくる。

一茶 青雲がやられた！

桃之助 なんで？

一茶 待ち伏せされてた！

桃之助 警察か？

一茶 どうやら違うらしい！

虎白 カーンは？

一茶 無事だ。家族も。

桃之助 じゃあなんで青雲は？

一茶 カーンは夏帆が逃がしてる！

虎白 おい。夏帆は？ 夏帆は無事なのか？

一茶 今若狭湾に向かっているはずだ。

桃之助 はず？

一茶 俺のスマホが夏帆のところにある。連絡できなかつたんだ。

虎白 ちっ！ 桃之助、夏帆に電話だ！

桃之助 ああ。

虎白 敵は？

一茶 金子が追ってる！

虎白 どこに向かっている？ 港か？

一茶 違う。西だ。

虎白 西？ どうなってる？ 敵の狙いはカーンじゃないのか？

桃之助 出ない！ 移動中か？

虎白 気づいたらすぐ連絡するように残しとけ。

桃之助 ああ。青雲は？ 青雲はどこにいるんだ？

一茶 だからやられたって！

桃之助 殺されたってことなのか？

一茶 そうだよ！ 撃たれたんだ！

桃之助 撃たれた？ バカ言え！ ハリウッド映画じゃないんだぞ！ ここは

日本だ！

一茶 バカ。んなことは百も承知だ！ だからびっくりしてんだろが！

虎白 蝦蟇口か？

一茶 わからん！ ぜんっぜんわからん！ あーもー何がどうなってるのか！

桃之助 くそッ。とりあえず夏帆と金子を待つしか！

【音響…BGM end】

【照明…暗転】

○第5幕

【照明…地明かり】

会議室で着席している虎白、桃之助、一茶、金子、夏帆。

虎白 社長に指示を仰ぐ。状況を整理したい。

桃之助 青雲の死体は？ 回収されてないんだろ？ まだ死んだって決まった

わけじゃないよな？

虎白 待て。整理だ。初めての仲間の死で全員少し動揺してる。落ち着こう。

桃之助 落ち着いてる場合か？ 早いとこ敵の居場所をさあ、なあ、なんとか

しないとヤバいって！

一茶 そうだ。落ち着けるかよ！ こんな状況で！

虎白 だからこそだ。だからこそ。焦って手術してる医者にも才を任せたいか？

桃之助 そんな不安しかないだろ！

虎白 そういふことだ。

一茶 そりゃ言ってることはわかるけどなあ。

虎白 落ち着こうとするだけでいい。その意識だけで多少変わる。緊急事態だ。

下手を打ってこれ以上部下を死なせるわけにはいかない。

一茶 ん。そうだな。落ち着く。ああ、落ち着こう。

桃之助 わかったよ。ちっ、自分だけクサやってふわふわしてやがるだけじゃねえのか？

虎白 それはそれで1つの方法だと俺は考えている。お前もやるか？

桃之助 やんねーよ。

虎白 だろうな。さて一茶、陣頭指揮はお前だ。なるべくまとめて話せ。

一茶 ああ。まとめて？ 何をまとめるんだ？

桃之助 1から話せよ。ホテルからさ。

一茶 ああ、そうか。

桃之助 いつもみたいにさ、ペラペラやればいいんだ。

一茶 わかったよ。いつもみたいにな。

桃之助 はい。ホテルから。

一茶 ああ、そうだ。カーンを宿泊先のホテルからトラックに運び出すまでは順調だったんだ。

桃之助 そう。配備は？

一茶 トラックの荷台にカーンと夏帆、運転席に青雲。別の車に俺と金子が乗って後衛。そのまま首都高から中央、東名ときて、名神に入った。

桃之助 はい、乗ってきた。その感じで？

一茶 うるさいな。茶々を入れるな。

虎白 桃之助、もう大丈夫だ。

桃之助 はい。

一茶 ああ、悪いな、で、名神の愛知から岐阜に入るあたりに羽島パーキングつてのがある。そこは名神では数少ない売店がないパーキングだ。他のパーキングより作業がしやすい。そこで、カーンの家族と落ち合う約束だった。

虎白 家族は来たのか？

一茶 ああ、嫁と子供は別ルートで自宅から運び出してたからな。嫁と子供をトラックに積んだところで銃声が鳴った。青雲が撃たれて、トラックがミニバン3台とプリウス2台に囲まれた。スーツを着た男たちがトラックに入って行って、青雲の死体を連れ出した。

虎白 お前と金子は？

一茶 数が圧倒的すぎた。そこで俺たちが出て行っても顔を晒すだけだ。一般人を装った。

金子 スーツの男、いっぱい。私たち2人。多分倒せても4、5人だった。

虎白 夏帆。そこまでは正しいか？

夏帆 はい。でも、スーツの男たちは、カーンとその家族には何もしてませんでした。

虎白 何？

夏帆 もちろん私にも目もくれず。青雲さんを運び出して、すぐにその場から去って行きました。

一茶 夏帆がこっちの車に来るのが見えたから、俺は金子と車から出て、トラックで金子にミニバンとプリウスを追わせた。カーン家族を俺の車に乗せて、夏帆に運転させて、俺は高速を降りてタクシーを拾い、本社に戻った。

桃之助 そこで一茶がスマホを自分の車に忘れたわけね。

一茶 ああ、それは本当に悪かった。俺も気が動転してたんだ。スピードが優先される事態だった。

虎白 夏帆、その後は？

夏帆 若狭湾に向かいました。でも特に追手とかもなく、予定通り密航船の担当者に引き渡して家族全員出国できました。そこで桃之助さんに電話を。

虎白 なるほど。金子は？

金子 あう、若狭湾に、向かうと思ってて、米原ジャンクションでまかれた。

多分、関西に向かったはず。

虎白 蝦蟇口組なら神戸に向かった可能性が高いってことか。

金子 わかんない、けど。そうかも。

虎白 今ある情報はそこまでか。

一茶 そうだな。

虎白 ありがとう。社長に報告してくる。指示を待て。

虎白、去る。

桃之助 ……なあ、おかしくないか？

一茶 おかしい？ 何が？

桃之助 仮に蝦蟇口組にやられたとしても、謎が多すぎる。そもそも奴らは羽

島パーキングでの受け渡しを知ってたんだ。どうやって知れる？ その受け渡しは青雲にすら当日まで言ってなかったトップシークレットだぞ？

一茶 何が言いたいんだ？

桃之助 俺たちの中に裏切り者がいるってことだろ？ じゃなきゃおかしい！

間。

桃之助 (夏帆を指して) となると怪しいのはどう考えてもお前じゃないか！

夏帆 そんな、私。

桃之助 今までこんな失敗なんて一回もなかった！ でもお前が来て一発目のでかい仕事でこれだ！ お前以外疑いようがないだろうが！

一茶 まあ待て。決め付けは良くない。

桃之助 だって。

一茶 だが、無意識に情報を流してる可能性はある。

夏帆 無意識？

一茶 本人にその気がなくても、情報が漏れるケースがあるってことだよ。ある会社の情報流出の話をしようか？ その流出元の社員はいたって真面目、優等生と言ってもいいくらいの社員だったが、一つ問題があった。そう、スタバで仕事をしていた。つまり部外者に背後から画面を覗かれる可能性があるあるってことだ。そしてそれを競合企業に掴まれ、極秘データが流出した。わかるか？ 本人にその気がなくても情報流出の危険はあるってことなんだよ？

桃之助 じゃあ尚更こいつで確定じゃないか！ 俺たちはそんな間抜けはしない。可能性があるのはこの素人女だけだ。

夏帆 私だって、そんなことしません。

一茶 これの怖いところは本人は無自覚ってところだ。情報流出が騒ぎになってもまさか自分がその流出元とは思わない。

夏帆 だったら私以外だってそうじゃないですか？

桃之助 だからお前以外はプロだって言ってるんだろ？

虎白が戻ってくる。

虎白 何を揉めてる。

夏帆 別に揉めてはいません。

桃之助 (制して) 裏切り者がいるに決まってるって話だよ！

虎白 裏切り者？

桃之助 じゃなきや今回の失敗は考えられない。

虎白 気持ちわかるが落ち着け。

桃之助 あんたそればかりだぞさつきから。冷静ぶってるけど内心一番焦ってんじゃないのか？

虎白 確かに。冷静になろうとしている自分がいる。内心焦っているとわればたら否定はできない。だが、それでも、そうあるべきだと思ってる。

桃之助 なんだよその使命感は。

虎白 みんなが冷静じゃない時ほど俺は冷静でいようと思うって話だ。

桃之助 クールぶんなって話をこっちはしてんの？

虎白 クールにならないと組織は崩壊するだろ！

一茶 桃之助、虎白の言う通りだ。クールになろう。

桃之助 おっさんはこれだから。わかったよ。クールにね。

一茶 で。虎白、社長はなんて？

虎白 ああ。これから社長の指示を話す。

公橙、入ってくる。

虎白 どうした？

公橙 ……。

虎白 なんだ？

公橙 社長が、殺されました。

全員、驚く。

【照明…一瞬の暗転】

【音響…東京スカパラダイスオーケストラ feat. 上原ひろみ「水琴窟」】

○挿入3 茶

プロジェクトに「触沢 一茶」の文字。

【照明…ブルー】

会議室。

桃之助 はああ？ 染谷と接触した？ あのテロリストと？

一茶 しーっ！ しーっ！ 声がでかいよ！！

桃之助 一茶の方がでけーよ。

金子 染谷は、危ない。

一茶 誰に聞いたのか知らないが俺の電話に非通知でかけてきやがった。中国から密輸入しろだよ。

桃之助 武器？

一茶 武器は武器だな。ウイルスだよ。

桃之助 ウイルス？

一茶 生物兵器だよ生物兵器！ やばいよ。あいつ、何かしでかすつもりだよ絶対。

桃之助 で、断ったのかよその仕事。

一茶 断ったら死だよ！ 奴が俺にこの仕事を持ちかけてきたってことは奴に俺の素性がバレてるってことだ！

桃之助 どうすんだよ？ 社長は？ 虎白には？ 言ったのか？

一茶 言えるわけないじゃない！ 殺されるよ。

桃之助 殺されやしないだろ。染谷は敵だろ？ まだ協力する前なら、こっちからやりようもある。……一茶、お前まさか。

一茶 仕方なかったんだよ。

桃之助 何で俺らにそんな話すんだよ！

一茶 なあ、一緒に逃げないか？

金子 あ、逃げる？

桃之助 お前なあ。逃げるったって。それにジョンドウへの恩とかないわけお前？

一茶 バカあるよ。超感謝してるよ。いいかベンチャーの社長なんて、全然楽しくない。そういうやつ周りの集まる人間は、クズにもなりきれない塵芥だ。

桃之助 俺はベンチャーの社長なんてやったことないからわかんねーよ。

一茶 イメージはつくだろ。

桃之助 なんか調子乗ってる感じか？

一茶 そうだ。成金になって調子乗ってるバカ社長も、それに群がる塵芥も、クズ以下。生きてるとは言えない。ジョンドウのおかげだ。生きてるって気がしてきてるのは。命を動かしてる。人は命を動かさないと生きてても意味がないんだ。

桃之助 それはわかったけどさ、どうすんだよ。俺、多分社長や虎白にこの話するぜ？

金子 私も。

一茶 まま、待ってくれよ。お前らと俺の仲じゃないか！

桃之助 いや、俺だって、なんとかしてやりたいけどさ……。

金子 一茶、死ぬのはやだ。

桃之助 ん？ 待てよ。

一茶 え！ 何？ いい方法思いついた？

桃之助 お、これいけるかもしれないぞ。うまくいけば、逃亡どころか、俺たちはジョンドウに一目置かれる存在になれるかもしれない。

一茶 え？ 何そんな大逆転の方法ある？

桃之助 染谷平太をさあ、バーバーン！ やっちまうんだよ。

一茶 ええ！

金子 バーバーン？

【照明…一瞬の暗転】

【音響…BGM END】

○第6幕

【照明…地明かり】

会議室。しばし無言の5人。

金子 あう、殺そう？ 社長を殺したやつも、青雲を殺したやつも。

桃之助 ああ、ぜひともそうしたいさ、「ハングマン」を送りつけてやりたい！

金子 公橙、言った。青雲を殺したやつと、社長を殺したやつ、同じ可能性

高いつて。

虎白 そうは考えにくいと思うがな。

桃之助 どうしてさ？

虎白 公橙の話には根拠がない。

桃之助 でも、ま、社長が殺された状況知ってる公橙がそう言うならなあ。

一茶 その公橙は？

虎白 社長が死ねばジョンドウは終わる。悲しんでる場合じゃない。やることは山ほどあるんだろ。

一茶 何だ？ 盛大な葬式の準備でもしようつてのかよ。顔出しNG、正体不明の男のさ。

夏帆 あの。

一茶 なんだ？

夏帆 みなさんつて、社長の正体ご存知なんですか？

桃之助 正体？

夏帆 正体不明の男を殺すことなんてできるんでしょうか？

一茶 確かに。夏帆の言うことは一理ある。そうすると今回の裏切り者イコール社長殺しの犯人とは決められない。

金子 あう。

桃之助 どうした？ 金子。

金子 い、いる。社長の正体知ってる人。

桃之助 え？

金子、虎白を指差す。

金子 虎白は知ってる。

虎白 待て。話が性急すぎる。……確かに、俺は社長の顔を見たことはある。

だが、それだけだ。しかも治療のため。正体を知ってるとは言えない。

一茶 バカお前それでもジョンドウの中で、一番社長に近いのはお前なことに変わりはないじゃないか？ お前以外は顔すら見たことないんだぞ？

虎白 俺たちは社長に救われた身だろ？ 動機もない。

桃之助 けど全員犯罪者。悪者だぜ？ 動機なんていくらでも考えられるだろ？

虎白 それはそうだが。俺じゃない。

金子 うあ、あと、公橙。

虎白 確かに公橙は社長に一番近い。付き合いも長い。だが、それこそ動機がない。しかも社長が死んだことを伝えてきたのは公橙だ。もし公橙が殺したとしたら、社長を殺してそのことを俺たちに言うか？

一茶 言わない。と考えるのがセオリーだったら、その逆を言ったかもしれない。

桃之助 それはあり得るかもね。

一茶 ん。待てよ。だけど公橙は青雲を殺ることはできないはずだろ？ 羽島 インターのことをあいつは知らない。

桃之助 協力者がいたんじゃないのか？ 例えば、元同僚とかさあ！

一茶 元同僚？ 夏帆か？

桃之助 こいつと公橙が組んでたとすれば、どっちも可能じゃないか。一番説明がつく。さぞ銀行時代に仲良くなったんだろうなー！

夏帆 確かに、銀行時代、公橙は後輩で友人でもありました。でも、私が銀行をやめてからは連絡もとってないし、ここに入った後だって、滅多に顔なんて合わせてないんですよ？

一茶 銀行時代からの計画だったとしたらどうだ？ 計画はすべて銀行時代に終わってたんだ。それを実行しただけ。

夏帆 ……だったら、銀行やめてすぐに実行します。あんなところで働かないです。

一茶 まあ、それも、そうか。

桃之助 じゃあ蝦蟇口組と繋がってたんじゃないかこいつ？ 金に手を出したとかは嘘でさあ。殺されそうになったフリしてさあ！

虎白 それはないな。あの日、夏帆はほっときや完全に死んじまうような状態だった。半殺しじゃない。死の一手手前だ。

桃之助 ってことはあんたもグルか？

虎白 いい加減にしろ。どっかの漫画のアホ組織じゃないんだ。そう何人も何人も裏切り者がいてたまるか。

一茶 そりゃいい例えだ。怪しいからって殺してちゃ味方までやっちまいそう
だ。

桃之助 まあ、確かに。手当たり次第疑うのは得策じゃないけどさあ。じゃあ

どうすんのさ？

虎白 1つ、引っかかっていることがある。

桃之助 引っかかっていること？

虎白 青雲の件だ。奴らの狙いはなんだ？ カーンじゃなかったんだろ？

夏帆 はい。男たちはカーンに見向きもしませんでした。

虎白 カーンが目的じゃないとすると青雲を撃った奴には別の目的があったはずだ。違うか？

一茶 まあ、単純に考えてそうなるな？

虎白 裏切り者捜しはキリがない。そっちの線からいくのが筋だ。

桃之助 そうは言ってもねえ。どうしようか。一旦解散する？ 情報持ち寄って後日また集まるとかさ。

一茶 確かに。ここで話してもまとまらない。それぞれ情報収集をしよう。

虎白 まあ、確かに。それも、一理あるか？

金子 あ、社長は？ 社長は私たちにどうさせようとしてたの？

虎白 ああ……社長の指示は、こうだ。1、カーンはこの件に関係ないと考えろ。2、トラックを隈なく調べろ。敵の真の目的を探れ。3。

桃之助 3？ なんで止まるんだよ。

一茶 なんだ？ 3は？

虎白 3、一茶、染谷平太と縁を切れ。今ならまだ許す。

一茶 ……。

金子 ……。

桃之助 は？

虎白 一茶？ これはどういうことだ？

一茶 ……いや、待て！ 違うんだ！ 社長は誤解してる？

虎白 何を？

一茶 違う！ 俺は染谷に協力なんてしてない！

虎白、机を叩く。

虎白 全部話せ！

一茶 うう。あ、そうだ！ トラック！ トラックを調べるんだろ？ そしたら痕跡が出てくるかもしれない。なあ桃之助？ そうだろ？

虎白 痕跡？ 桃之助！ お前も何か知ってるのか？

桃之助 ……。

虎白 おい！

桃之助 そうだ！ ニュース！ ニュース見てくれ！

虎白 ニュース？

桃之助 (スマホを取り出し、捜査した後) これだこれ！

虎白 なんだ？

一茶 (桃之助のスマホを奪う。) 貸して！ えーつと。「今日未明、新宿区の公園で、謎の爆発、巻き込まれた染谷平太さん、38歳が死亡しているのが。」

染谷！ 染谷死亡だ！ 「爆発の詳細は確認中で、警察は染谷を狙った組織的な犯行ではないかとして捜査。」だってさあ？

桃之助 これだ！ これ！ これだよ！ な？

虎白 染谷が死んだ？

桃之助 そうなんだよ！ 染谷と関わるも何も染谷は死んじまったんだ。一茶は協力もクソもない。いや。むしろ。一茶がこれをやったんだ。

虎白 何？？？

一茶 バカいや、ちゃんと。ちゃんとやった！ 俺にはたどり着けない。うまくやったんだ！

虎白 何が何だかさっぱりわからん。1から説明しろ。

一茶 だからさ、染谷に脅されてたんだ。俺は。中国からさ、細菌兵器を密輸入しろってさ。

虎白 細菌兵器だと？ お前まさかそんなもん。

一茶 いやいや、一旦ね。一旦だよ。一旦その場は言うこと聞いたんだ。でき、そう、そいつをさ、こっ奴らに渡すフリをして、中国に送り返してやろうと。

な？ で、染谷をどかーん。これで全てが丸くおさまる。そういう計画だ。なあ、桃之助？

桃之助 ああ、そう。そうなんだよ。いや、俺もよくはないと思った。でも一茶はもう染谷に手を貸しちまってたんだ。だから、俺は一茶を助ける気持ちで。

虎白 (一茶と桃之助を殴る。) 馬鹿野郎！ なんでもっと早く言わねえんだ！ 一茶 まさか社長に感づかれてるとは思わなかったんだ。

桃之助 だってさ。言ったら、もう社長に許されないじゃん。だからあ、なん

とか俺たちの手でさ、細菌兵器を取り返さないって。

虎白 ……まさかお前ら、カーンと一緒にその細菌兵器を。

一茶 そうだよ。中国に返そうとしてた。

虎白 染谷が死んだのは？ 今日のいつだ！

一茶 今日の朝4時くらいだ。

虎白 ……お前、染谷に利用されたな。

一茶 どうしてだ？ 染谷は死んだ！ 利用も何も関係ない。

虎白 染谷が自分の死と細菌兵器、どっちを優先する男だと思う？

一茶 え？

虎白 だからテロリストってのは厄介なんだよ！

一茶 どういうことだ？

虎白 お前、染谷と接触したんだろ？

一茶 ああ。それが？

虎白 あいつは催眠、洗脳、人心掌握に長けてる。知らぬ間に情報を抜かれた可能性が高い。羽島での家族との合流。これを細菌兵器を奪うポイントとして利用された。平気で銃をぶっ放したのも奴らがテロリストだからだ。後先考えてないんだあいつらは……。

間。

【音響…虎白の電話が鳴る】

虎白 なんだ？ ……ああ。ああ。……なるほど。そうか。そこはやはり素人

だな。いや、むしろさすがは青雲か。……ああ、ありがとう。指示は追って

伝える。……ああ、そうだ。おそらく「ハングマン」を向かわせる。ああ、

そう、それじゃ。（電話を切る。）

桃之助 トラックか？

虎白 ああ。裏切り者が誰だとかくだらん議論は一時中断だ。さすが青雲。プ

ロの仕事。死ぬ間際、奴は、自分に銃口を向けた奴の顔をスマホに収めてた。

そして自分にGPSの発信機をつけ、受信機をトラックに残した。奴のトラックのグローブボックスは二重構造になってたらしい。短時間でそこまで見つけることは敵にもできまい。

一茶 おお、それなら犯人を捕まえられる！

桃之助 さすが青雲だ！

虎白 それだけに惜しい男をなくした。

一茶 いや、そこまでやってるんだ。即死じゃなかったってことだ。まだ死んだかどうかわからない。

桃之助 そうだ！ 希望が見えてきた！

一茶 どうする？

虎白 ああ。そうだな。

【音響・虎白の電話が鳴る メール】

一茶 どうした？

虎白 これを見ろ。こいつが青雲をやった犯人だ。

夏帆 ……。

一茶 なんだなんだ？

虎白 こいつが夏帆を伝説の風俗嬢にした男。…：那須真啓だ。

桃之助 那須ってのは夏帆の元彼じゃねーのかよ？ なあ？ つくづく俺をイ

ラつかせるなあ、伝説の風俗嬢ってのはさあ！

一茶 夏帆が情報を流してたってことか？

夏帆 知らない。私。

虎白 さあ。決めきれないな。一茶から染谷経由で流れた可能性もあるし、夏帆から那須に流れた可能性もある。

桃之助 それだったら俺は夏帆から那須説を推すね。染谷がもし一茶から情報を得ていたとしたら、自分の死も避けるはずだ。でもニュースは流れた。

虎白 偽装かもしれない。染谷はそこまでやりかねない。

一茶 俺は俺じゃないと信じた。でも、夏帆、お前が那須に情報を流した。

その可能性はあるのか？ 意図的にじゃなくとも無意識でも。なあ、まだ那須と繋がってたりするの？

夏帆 繋がってないです。

一茶 ……まあ、そう答えるしかないよなあ。

夏帆 本当に繋がってないんです。

桃之助 信用できるか。

虎白 まあ待て。情報の流出元は後回しだ。今できることをやろう。

桃之助 チツ。冷静なお医者様のおかげで命拾いしたな。

一茶 今できること？ 青雲のGPSか。

虎白 ああ、そうだ。

夏帆 どうするの？

虎白 「ハングマン」を送り込む。青雲の身柄を確認し、那須を監禁して拷問して全て吐かせた後に、殺す。

夏帆 ……監禁して拷問？

虎白 そうだ。染谷や今回の件の上層部について洗いざらい吐いてもらう。ま

あ、末端の奴がどこまで知ってるかはわからんけどな。

一茶 「ハングマン」なら半日もあれば、なんでも吐くだろう。薬から痛みから脅しから躊躇なくなんでもやるからな。

虎白 頼んだぞ。金子。

金子 うん。わかった。

金子、去ろうとする。

夏帆 ……え？ 待って。「ハングマン」って？

一茶 言ってなかったか？ 金子は、ジョンドウ1の殺し屋。特に絞殺が得意でな。こいつに殺された男は精気を搾り取られる。

夏帆 え？

一茶 知ってるか？ 首絞められて死んだ男ってのは勃起するんだ。金子は、そうやって殺した男の股間に跨って男を屍姦する。一番趣味が悪いのは、俺じゃない。こいつなんだよ。

夏帆 嘘。

虎白 嘘じゃない。事実だ。

桃之助 金子のことを大人しいだけの良い子ちゃんだとも思ったの？ ここにいるのはぜーんいんプロの犯罪者なんだよ？ 素人さん。

金子 綺麗は汚い。汚いは綺麗。

【照明…一瞬の暗転】

○挿入4 金

【音響…東京スカパライズオーケストラ 追憶のライラック】
プロジェクトに「入間 金子」の文字。

【照明…ブルー】

深夜の公園。

桃之助 あー、いたいた！ 入間金子！

金子 (ビクツとする)

虎白 人は見かけによらないとはこのことだな。

一茶 (笑って) 見かけ通りのやつが言うセリフかよ。

虎白 どういう意味だ。

金子 (警戒する。)

桃之助 ああ、大丈夫大丈夫安心して。君のことはよく知ってる。うん？
知ってる、というか、調べたんだ。

金子 ……。

一茶 ジョンドウの情報収集能力は警察以上だ。日本において情報収集をした
かったら、探偵でもなく警察でもなく俺たちに頼むといい。

虎白 入間金子は帰りたくない日にこうやって公園で時間を潰すのも、調査済
みだ。

桃之助 週末はお父さんが帰ってくるんでしょ？ だから家に帰りたくない。

金子 ……。

桃之助 ああ俺？ 俺はね、間久部桃之助。悪いやつさ？

虎白 悪い奴って自己紹介があるか。

一茶 間違っではないね。俺が武器商人で、こいつがハッカー、こいつは闇医
者だ。

金子 あう。あ。

桃之助 大丈夫。それも知ってる。どもり。ああ、吃音症だろ？

金子 ……なんで、私のこと。

虎白 この辺で起きてるオヤジばかりを狙った連続絞殺殺人事件。犯人あんた
だろ？

金子 あ。

桃之助 そんなに怯えないで。俺たちはあんたを助けに来たんだ。

虎白 そう。味方だ。人間金子。お前は何にもおかしくない。おかしいのは世界の方だ。

一茶 かつこいいこと言うな。

虎白 やかましい。

桃之助 味方だよ。そうそう。金子はすごいやつだ。俺たちの仲間になるべきだね。

虎白 お前が望めば、お前の父親だって消してやるぞ？

金子 うあ（首を振る）。

虎白 そうか、母親が悲しむ顔を見るのは辛いか。

金子 ……。

虎白 でも、だからって我慢することはない。逃げるくらいはしてもいいだろ？

桃之助 警察にあんたが捕まったらどっちみちお母さん悲しんじゃうよ？

虎白 地方の教会に修行に行ったって設定はどうだ？ それならお母さんも悲しまない。

一茶 教会って柄かよお前。

桃之助 えー、虎白が神父役やるってこと？ 似合わなそー。かといって一茶もなあ。

一茶 誰が神に祈るもんか。

虎白 俺だってやるもんか。そういうことにはそういうことのプロがいる。

金子 あ、あの。

虎白 どっちでもいいぞ？ けどこれだけは確かだ。社長は。俺たちは、人間金子を必要とする。

金子 あう。

【音響…BGMEND】

【照明…地明かり】

○第7幕

金子に向けて銃を構える夏帆。

金子 あう。

桃之助 は？ なにやってんの？ 自分のしてることわかってる？

一茶 バカ逆なでするな。あの目は本気だ。撃つぞ。

虎白 やめろ。落ち着け。

夏帆 弾丸、込めろって言いましたよね？ 虎白さん。

虎白 言った。言ったが、今は違う。その銃口は金子に向けるべきじゃない。

向けるなら俺に向ける。

一茶 バカ何トチ狂ってる！ 解決になってない。

金子 あう、夏帆、友達？

夏帆 違う。私、殺し屋とは友達じゃない。

金子 あう。

夏帆 あなたは真啓を殺すんでしょ？

虎白 青雲を殺したのは、那須だ。仕方のないことだ！ もうあいつのことは

忘れる！

夏帆 そういう問題じゃない！

金子 夏帆、困ってる。私、夏帆助きたいよ？

夏帆 じゃあ死んで。

金子 ……夏帆が本当にそうしてほしいなら、いいよ。

虎白 金子！ 滅多なこと言うな！ 夏帆、落ち着けと言ってるだろ？ 金子

を撃つてもどうにもならない。那須はどのみち殺される。

夏帆 じゃあその命令を取り消してよ！

虎白 無理だ。社長の命令は取り消せない。

夏帆 じゃあ撃つ。

虎白 撃つたところで何も変わらない！

夏帆 撃つてから決める。

虎白 待て。そんなことで社長の意思は変わらない！

夏帆 ……本当に？

虎白 何が言いたい？

夏帆 さっきの公橙の話。嘘ですよね？

虎白 は？ 嘘？

夏帆 社長が死んだって話。

一茶 は？ 何だ？ どういう意味だ。

桃之助 社長がまだ生きてるってこと？

夏帆 社長は死んでます。

桃之助 は？ ふざけんな！ 何言ってるんだお前！

一茶 わからない。ちゃんと説明しろ。

夏帆 だから、社長はとつくの昔に死んでるんですよね？

間。

一茶 社長が死んでる？ とつくの昔に？

桃之助 おいおい。妄想はそれくらいにしてくれよ？

夏帆 銀行を辞める前、公橙に言われました。「俺は生きるための地図をなくしちゃいました」って。公橙の生きるための地図って社長のことですよ？ 社長はもういない。でもジョンドウは残り続けている。今のジョンドウはトカゲの尻尾みたいなもの。本体がないのにバタバタバタ動き回って生きてるように見せてるだけ！ 違いますか？

虎白 ……わかった。わかったから銃を置いてくれ。

夏帆、銃口を下げる。

虎白、席に着く。

虎白 みんなも落ち着いて聞いてくれ。

桃之助 何回落ち着けていうんだあんた。

虎白 すまない。だけど、聞いてほしい。

桃之助 それって、待って。まじかよ？

一茶 夏帆の言ったことは正しいのか？

金子 社長、もともと、いないの？

虎白 公橙にどういう意図があって今更あんなことを言ったのかは謎だが、社

長は公橙が三菱銀行に潜入する前に、亡くなった。

桃之助 どうして？

虎白 病気だ。誰に殺されたわけでもない。

【照明…一瞬の暗転】

○挿入5 John Doe

【音響…心電図】

プロジェクトに「John Doe」の文字。

【照明…ブルー】

手術室前。

公橙 すいません。

虎白 どうしてお前が謝る。謝るのは俺の方だ。

公橙 ジョンドウから、聞きましたか？

虎白 ……ああ。聞いた。

公橙 好きにしろと言われました。

虎白 お前に一番向いてないやり方だな。

公橙 はい。

虎白 で？ どうするんだ？ 今回はあの時みたいなのメモはないんだろ？

公橙 はい。

虎白 会って見たらどうだ？

公橙 虎白さん。

虎白 なんだ？

公橙 家族ってどんなものでしょうか？

虎白 さあな。俺もよくわからんが、「好きに生きて幸せになってほしい」と思

うのが家族じゃないか？ だからジョンドウも最後の最後にはお前に選択権

を与えた。

公橙 会えば家族ってわかりますかね？

虎白 どうだろうな。ただ……。

公橙 ただ？

虎白 俺にとって、ここはもうホームだ。俺はホームを守りたい。

公橙 ……。

虎白 お前が決めるべきだとは思う。だがお前が考えている間は、俺が決めてやる。

公橙 すいません。

公橙、去る。

【音響…心電図END】

【照明…地明かり】

○第8幕

夏帆 やつぱり。「株式会社ジョンドウ」を実質的に支配していたのはあなたな
んですね。

一茶 やつてくれたな。大嘘つきめ。俺たちは今まで何に感謝し、何に怯えて、
何に従ってきたんだ？ バカらしい！

桃之助 虎白。個人的には俺はあんたのこと嫌いじゃないけど、これはある意
味裏切りと言つてもいいんじゃない？

金子 ……やだ。わかんない。

虎白 批判は甘んじて受け入れよう。だが、考えても見てくれ。あの時、社長
が死んだ時、そこでこの会社を終わらせていいと思うか？ お前たちはそれ
でいいのか？ この場所を守りたいと思わないのか？

桃之助 ああ、思うさ！ 思うね！ だからこそ真つ当に！ 正しいやり方
で！ 俺たちにも相談してくれりゃあよかったんだ！

一茶 そうだ！ カーンの件だってそうだろ？ 社長が死んでるってことは、
カーンにこの案件を持ちかけたのはお前つてことじゃないか！ 会社を私的
に使つてたんじゃないのか？

虎白 違う！ カーンは社長が生きてる頃からの大口顧客だ！ 俺はその仕事
を引き継いだだけ！ 私情で会社を動かしたことなんか一回もない。

桃之助 はっ？ どうだかねー。

虎白 信じてくれ。

一茶 そう言われても信じられない状況を虎白は自分で作つたんじゃないか。
俺たちとさも同格みたいな顔して、結局裏で全部仕切つてたわけだからさあ。

虎白 ……そうだな。それに関しては、謝るしかない。

虎白、土下座する。

桃之助 おいおい、土下座してくれなんて頼んでないよ。

一茶 バカお前、そういう話じゃないだろ？

虎白 わかっている。わかっているが今、俺にはこれしか方法が思いつかない。すまなかった。許してほしい。

夏帆 じゃあ真啓も許してあげて。

虎白 それは、できない。

金子 あう、夏帆、これは、無理だよ。だって真啓は悪いことした。お金借りただけならまだ許される。でも真啓は仲間を殺した。

一茶 まあ所詮は鉄砲玉。上の指示でやらされたんだとは思うが、だからと言ってみすみす見逃すわけにはいかねーんだよ。

夏帆 じゃあ金子も人を殺してるから、死ななきゃね。

夏帆、再び金子に銃を向ける。

金子 うん。わかっている。私、いつでも、死ぬ。

虎白 (立ち上がって) わかった！ 夏帆、待ってくれ。

夏帆 待つ？ 何を待つんですか？

虎白 こうしよう。青雲は即死じゃなかった。つまりまだ生きてる可能性があるんだ。だから、まずは青雲の安否確認だ。青雲が生きてて、那須が、「上」についてきちんと吐いたなら、奴の命までは取らない。うちの下っ端として雇ってやる。それならどうだ？

一茶 バカ何言ってるんだ。青雲は撃たれてんだぞ？

虎白 わかっている！ わかっているが、このままじゃ、この中の誰かが死ぬことになるんだぞ？

一茶 バカそんなことはわかっている。「でも」の話だ！ 「でも」の！

桃之助 いや、待って。虎白の言っていることが一番合理的だよ。なるべくならこんな会議室で血は見たくない。それに、今回の件は俺や一茶も悪かった面がある。いや、虎白、あんたもだ。だから、今は一回、それに従おう？ さすがにここまで妥協すりゃ夏帆も文句ないだろ？

夏帆 ……わかった。一旦待つ。でも待つだけだから。青雲さんが殺されてたとしても私の行動は変わらない。

虎白 わかった。それでいい。今すぐトラックの連中に連絡を取って青雲と那

須の居場所を……。
公橙 その必要はないです。

【音響…東京スカパライダ이스オーケストラ 野望なき野郎どもへ
Feat. TOSHI-LOW】

公橙が銃を構えて入ってくる。ヤシシガンを持っている。

【照明…レッド】

夏帆 公橙？

一茶 おい、何のつもりだ？

虎白 何を考えている？

公橙 すいません。那須にはもう俺が追手を送りました。

虎白 何？

公橙 ジョンドウはもう終わってたんです。俺は、ずっと、どうすればいいかわかんなかったんですけど、夏帆さんがいれば、俺と同じ境遇の人がいれば、何かわかるような気がしてたんです。でも、わかったことは、「好きに生きた先には破滅しかない」ってことです。（銃口を夏帆に向ける。）

虎白 違う。お前はわかってない。勘違いをしている。

公橙 そうなのかもしれません。すいません。でも、もう決めたんです。

夏帆 会わなきや、よかったね。

公橙 すいません。

夏帆 もういいよ。誰にも謝らないで。（夏帆、公橙に銃口を向ける。）

金子、間に入って銃口を公橙に向ける。

一茶 （銃を出して公橙に向ける）もう、これ以外なきさそうだな。

虎白 待て！ 打つな！ 2人は要だ！ 打てば……（銃を取り出し、一茶に

銃口を向ける。）

一茶 おっと。そうくる？ お前、やっちゃったな。優先順位をつけちゃった。もう戻れないぞ。

桃之助 おい虎白。それはいくらあんでも許されないよ。（銃を取り出し虎白に向ける。）

公澄 ほら、こんなことになる。

【音響…ウノを遊ぶ声、「ドロー2」「スキップ」など、声が聞こえた後、「ウノ」の音が聞こえる。】

「ウノ」の音が聞こえた直後、
全員、銃を乱射する。

【音響…銃撃戦】

【照明…フラッシュ】

赤い羽根が降ってくる。
全員、倒れる。

【照明…暗転】

【音響…BGM END】

○挿入6 橙

プロジェクターに「新延 公澄」の文字。

【音響…強風】

【照明…ブルー】

銀行前。

夏帆 挨拶なんていいのに。クビなんだから。

公澄 すいません。

夏帆 最後まで謝るのやめなよ。

公澄 彼氏さんのためですか？

夏帆 ん？ うん。まあね。

公澄 なんで決められるんですか？

夏帆 何を？

公澄 生き方です。俺は、なんか、よくわかんないんです。生きるための地図
みたいなのをなくしちゃいました。

夏帆 ん？ んー？ よくわかんないけど、生き方って、決めるものじゃなく
って勝手に決まってるものなんじゃない？

公澄 え？

夏帆　なんか私も、こうしようって決めたわけじゃなくて、気づいたらこうな
ってたし、でも、なんか、今はせいせいしてるというか、これはこれでいっ
かなって思えてるというか。

公橙　でも俺は何も決められなくて。

夏帆　でも生きてるでしょ？　朝起きて今日はパンにしようかな、ご飯にしよ
うかなって考えてるでしょ？　決めてるでしょ？

公橙　決めてますけど。

夏帆　じゃあいいんじゃない？

公橙　あの、すいません。もしもの話なんですけど。

夏帆　何？

公橙　もしもですよ？　夏帆さんが大資産家の娘で、その人が持つてる資産と
か会社とか全部急に相続できるってなったら、全部、相続しますか？　背負
いますか？

夏帆　なにそれ？

公橙　すいません。

夏帆　（笑って）うーん、まあ、どっちにしろ、まずは殴るかな。お母さんと
私ほったらかしてなにしてたよってさ。

【音響…強風END】

【照明…暗転】

○最終幕

【音響…東京スカパライズオーケストラ　Feat. 尾崎世界観　爆音
ラブソング】

プロジェクトに「江寺　夏帆」の文字が表示された後、深夜の新
宿が映し出される。

夏帆、銃を片手に新宿を歩き続ける。

夏帆　生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみすること
あなたと手をつなぐこと

生きているということ

いま生きているということ

それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものに出会うということ
そして

かくされた悪を注意深くこぼむこと

生きているということ

いま生きているということ

泣けるということ

笑えるということ

怒れるということ

自由ということ

生きているということ

いま生きているということ

いま遠くで犬が吠えるということ

いま地球が廻っているということ

いまどこかで産声があがるということ

いまどこかで兵士が傷つくということ

いまふらんこがゆれているということ

いまいまが過ぎてゆくこと

生きているということ

いま生きているということ

鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりははうということ

人は愛するということ

あなたの手のぬくみ

いのちということ（生きる 谷川俊太郎）

【音響・BGM END】

倒れる夏帆。

プロジェクトに雨が投影される。

公橙、現れる。

夏帆 あれ？ あー、私、こんな感じで死ぬんだー。……思えば、クソみたい
な人生だったな。……でも、ま、楽しかったか。最後の方は、少
し、ドラマチックだった、し、ね。

公橙に向けて銃が放たれる。

【音響・銃声】

【照明・暗転】

（プロジェクトに一瞬文字が映る。

「WILL CONTINUE THE NEXT EXTRA PERFORMANCE [SUPER KOJIRASE PARTY
PARTY]」)

【音響・東京スカパライズオーケストラ ちえのわ feat. 峯田和

伸】

幕